

●安心安全な給食（給食無償化・地産地消・オーガニック給食の導入）

交野市では、R5年度より**中学校の給食費が無償化**されました！全国では約1600の市町村のうち、3割が**学校給食を無償化**にしています（2022年度）。交野でも小学校の給食費無償化にも段階的に着手することによって、子育て世帯にとっては負担軽減となり、多くの市民が望むところです。ただ、無償化であることはもちろん、**子どもたちには安心して安全な食**を提供したい。

実は日本は農薬の使用基準が他国に比べて緩く、農薬使用量も多いのが現状です。韓国では母親たちの活動から、オーガニック給食が主流になりましたが、日本でもオーガニック給食に取り組む自治体が増えてきています。

現在はオーガニックの食材は高級品ですが、本来それらが長期的にみて健康につながる事が分かっているならば、生活水準に関係なく、誰もが当たり前を選択できるものになってほしい。2023年6月15日には「オーガニック学校給食を全国で実現する議員連盟」が超党派で設立されています。国の農業もこの先有機栽培にシフトをはじめていこう。緑豊かで農地もある交野だからこそ、いち早くそこに取り組むべきです。

交野市では**給食白飯の51%に交野産を使用**。（R3年）交野産で足りない分は近隣のものとなっており、地場野菜も積極的に取り入れられています。この地産地消への取り組みは、非常に評価されるものです。後継ぎ問題で農地を手放したい人もいれば、農地を使いたい若い世代もいます。うまくマッチングできたら、交野市の給食はまだ進化できます。オーガニックに関しては、まず導入から。給食に使用する白米は1日52kg。たとえ一日でも対応できる日があれば、子どもたちに食育として知ってもらうことが初められます。

食べることは生きること。これは未来を見据えて、子どもたちの体づくりへの投資です。

「全国オーガニック給食協議会」設立 代表理事に太田いすみ市長



有機栽培の食材を学校給食に導入する活動を推進するため、自治体、生産者、消費者らが2023年6月2日、「**全国オーガニック給食協議会**」を設立した。設立には全国各地から、千葉県いすみ市など32市町村、農業協同組合や生活協同組合など59団体、個人195人が加わった。

具体的な活動としては、先進的な自治体の活動の視察や研修会のほか、全国オーガニック給食フォーラムを定期開催し、会員の交流を深める。2023年のフォーラムは11月に新潟県佐渡市で開く。

引用：めぐりネット



<https://agrilab.kyodo.co.jp/2023/06/post-567.html>



●安心安全な給食(給食無償化・地産地消・オーガニック給食の導入)

近隣では、大阪府**泉大津市**が、学校給食での「オーガニック米」や「特別栽培米」として収穫されたお米の使用をR5年度より始めています。連携する農山村地域から質の高い米を直接購入するというもの。保護者負担が増えることなく、より体によく、よりおいしい米が給食で提供されています。泉大津市HPより




令和5年4月の給食から


「オーガニック米」や「特別栽培米」
として収穫されたお米を使用します！

このお米の取り組みは、市が連携する農山村地域から質の高いお米を直接購入し給食に提供するもので、保護者負担はありません。また、体によりよい栄養価やうま味を残した特別な金芽米加工をして給食に提供します。

第1弾 (4月から5月中旬まで使用予定)

「熊本県人吉・球磨産のオーガニック米」

人吉・球磨地区は、四方が山に囲まれており、山と農地の距離も近いことで、水源からよりよい水を取り入れる事ができます。また、盆地であるため寒暖差が大きいこと、土にも恵まれているというお米作りに欠かせない「水・気温・土」の3つの条件がそろった「適地適作」の環境です。

そんな人吉・球磨地区で化学肥料や農薬を使用せず、自然の力で育てられたお米は、お米の食味コンテスト(見た目や美味しさを競うもの)でも高い評価を得られています。



泉大津市のHPより引用

●子どもの居場所づくりとフリースクール利用の助成

全国で不登校の小中学生は**過去最多の約24万5000人**。

現在の学校制度にしんどさを感じている子どもたちが、確かにいます。個々に理由は違いますが、学びの環境である学校がカリキュラムに押し込められていたり、得意なことも苦手なこともそれぞれに違う個性豊かなひとりひとりに、一律の勉強、一律の課題、一律の評価が課せられていることが負担になっているようにも感じます。

交野市の不登校の数を調べたら次のような回答がありました。

小学校、中学校における不登校の件数（児童生徒数：小学生3994人 中学生1957人）

	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	9	7	11	7	6（1.5/1000人あたり）
中学校	23	22	42	34	28（14.3/1000人あたり）

不登校者数全国平均
 小学校 13.0/1000人あたり
 中学校 50.0/1000人あたり

不登校とは「何らかの**心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景**により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために**年間30日以上欠席**したもののうち、**病気や経済的な理由によるものを除いたもの**」と定義されています。

交野のこの数字は全国平均と比べると驚くほどに少なく喜ばしいことですが、実際に聞こえてくる保護者の声とは体感としてかけ離れています。というのも、学校にほんの少しでも顔を出したら登校扱いになったり、身体症状が出るために体調が悪く欠席する場合はそれが病気と扱われればカウントされません。フリースクールによっては出席扱い制度もありますが、その場合もここにはカウントされません。毎朝の行きしぶりを親の声かけて乗り越えている子もあるでしょう。つまり実際の子どもたちのしんどさの指標を拾っている数字ではなく、学校にいかない、いけない、行っているけどちょっとしんどい、そんな潜在している子どもたちを見過ごしている可能性も念頭におく必要があると思っています。

特に一中校区は統廃合のさなか。教職員や保護者、教育委員会が力を尽くしてくださっている中で、大多数の子どもたちは柔軟に適応でき日々を楽しめていると思いますが、大きな環境の変化に心がギリギリのところまで過ごしている子ども存在するでしょう。学校を子どもたちにとってより安心して過ごせる場所にするのはもちろんですが、ひとりひとり違う子どもたち全員を同じ枠組に当てはめることは不可能です。

目指すのは、「**学校に行っても行っていないなくても、すべての子どもたちのその存在が受け入れられること**。そして、あらゆる選択肢が増えることで、**だれひとり取りこぼさず、その子にとっての育ちと学びの環境が守られること**です。

子どもたちの
 育ちと学びを守りたい
 みんな違ってみんないい
 ありのままのあなたでいいよ

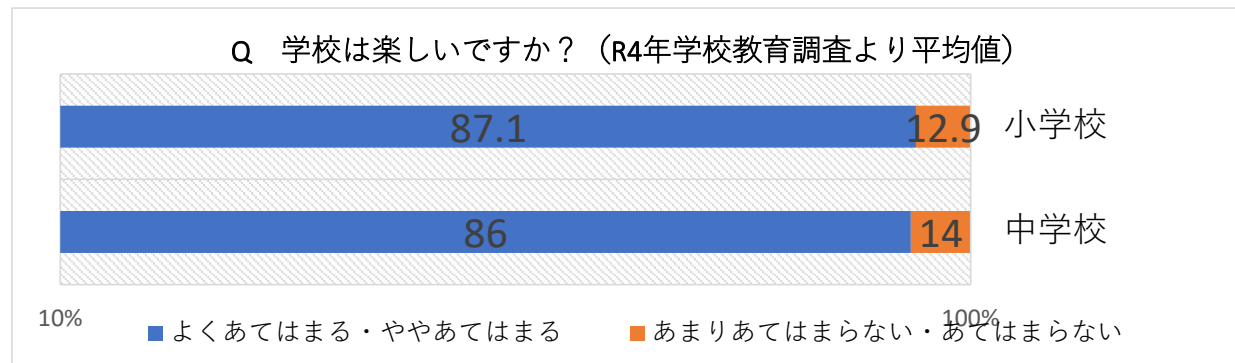
枚方市では
 不登校の数は
 およそ871人(R3)
 小中学生約30000人
 なので29人/1000人
 あたり



●子どもの居場所づくりとフリースクール利用の助成

交野市では毎年、学校ごとに児童と保護者のアンケート式の学校教育調査が実施されてます。その中で「学校は楽しいですか?」という質問に注目してみると、肯定的な回答の割合はR4年小学校で87.1%、中学校で86%となっています。

児童生徒の大多数が学校の間を楽しめています。注目すべきは残りの13~14%であり、1割の子どもたちは学校を楽しんでいると思えていない状況があるということです。



だれひとり取り残さないようにするためには、学校の環境を整えるとともに学校以外の選択肢も増やすことが望まれます。第3の居場所として最近ではフリースクールの数が増えています。

フリースクールとは、何らかの理由で学校に行くことができない、行かないという子どもたちが、小学校、中学校、高校の代わりに過ごす場所で、不登校、ひきこもりなど、その他軽度の発達障害など様々な個性、特性をもつ子どもたちを受け入れて学びの場を提供しています。様々な形態がありますが、共通して、子どもたちの主体性を尊重してくれるという特徴があります。

交野市内では当初フリースクールがなく、学校に行かない子とその保護者は近隣市の施設を利用を頼った状態でしたが、R2年6月に「一般社団法人 根っこわーくす」がフリースクールを始めました。

そしてR5年度には、その拠点である「交野こそだちベースtomos」で交野市と連携のもと、日本財団「子ども第3の居場所事業」がスタートします。秋ごろには、交野市内の小中学校へ送迎をうけて放課後が過ごせるようになる予定です。

何かしらに評価されることなくありのままの自分を受け入れてもらえる、ひとりひとりの想いが尊重され考え行動できる、主役である子どもを大人が見守る、そんな居場所。交野の子どもたちや保護者にとって、自分たちの町の中でそのような選択肢が増えたことはとても有益なことです。

ひとつ課題として挙げるのは、現状として公教育とは異なる枠組みとなるフリースクールの利用には別途費用がかかるということ。フリースクール費用は全国平均で月額3.3万円。その経済的な理由から選択を諦めるということがないよう、フリースクール利用料に一定の補助をつくることを提案いたします。大阪市内では塾代補助の制度(小5~所得制限あり、月額1万)でフリースクールが利用できるようになっており、自治体でもフリースクール施設や利用者への補助取り組むところが増えてきています。大阪市ではR6年度に不登校特例校を設置予定です。

また子どもたちの居場所として、フリースクール以外にも交野市内の各所で「子ども食堂」や「放課後フリースペース」など、様々なマンパワーによる様々な活動がされています。そういった居場所がどんどん増えて、横にもつながり、まち全体が居心地のよいコミュニティになることを目指しましょう。



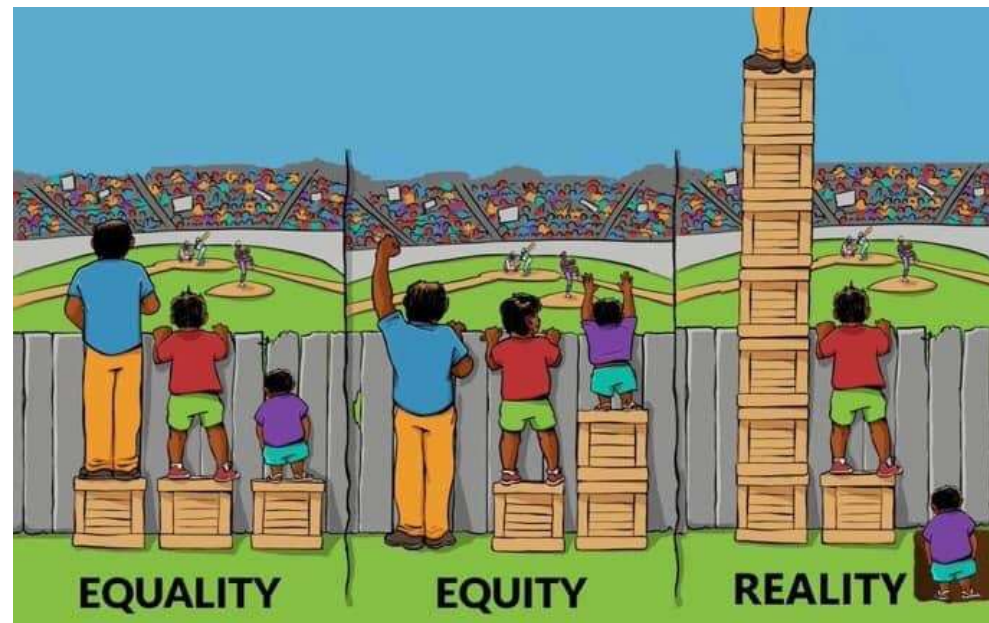
●子どもの居場所づくりとフリースクール利用の助成

★公平と平等★

よく似ている言葉で
「平等」はみんなに同じことをすること
「公平」はみんなを同じようにすること
今の社会に必要なのは、公平の視点です。
弱い立場の人、何かしらのハンデがある
時に、そこを補ってスタートラインをそろ
えることが、あたたかくやさしい、誰もが
安心できる社会への第一歩となります。

子どもの気持ちを大切にしながら対応
できるような支援級の充実や、みんなが
ごちゃ混ぜだからこそ、競争でなく生き
合うことが体験できるインクルーシブ教
育も望まれます。

奪い合えば足りませんが、分け合えば
あまるのです。



★子どもの人権★

子どもというのはそれだけで社会的弱者で、「子どもたちのために」といいながら、大人たちはつい、子どもたちの気持ちを置き去りにしがちです。子どもの意見を聞く、ということに皆が慣れていませんが、**子ども基本法の制定**において、子どもにも人権があることが明言されました。

とりわけ意識が薄れがちな、参加する権利について子どもたちが主体的に動けるよう、大人も意識を変えていく必要があります。ルールだから守るべき、こうあるべきという固定概念にとらわれがちですが、ルールが時代にそぐわなかったり、間違っていた時には、それを自らの力で変えていける。子どもを保護の対象から、権利の主体に。子どもたちの声を聴く場づくりはもちろん、権利についても学びのチャンスを提供していきましょう。

子どもの権利

- 生きる権利
- 育つ権利
- 守られる権利
- 参加する権利

★連携と協力★

不登校支援(教育委員会)
居場所事業(子育て支援課)
不登校の親への支援(社会福祉協議会)



●小中学校で外部講師によるいのちのおはなし実施(性教育)

文科省ではR3年、子どもたちを性暴力の被害者・加害者・傍観者にならないための「いのちの安全教育」が提案され、R5年度から実際の学校教育にも入ってきます。またその内容は、月経や射精といった体の発達や生理的な一部のテーマを学ぶだけではなく、同意・安全・多様性・ジェンダー・セクシュアリティなど、「性」を生物学、社会、環境など多面的にとらえてまなぶ包括的性教育とされ、子どもたちへの人権教育として捉えられています。

すでに多忙でゆとりのない学校の先生にとってはその授業が負担であること、日ごろ近い距離で過ごしているからこそ伝えにくいものであること、いのちの誕生を日々見届けているリアルな声が届けられるという3つの理由から、すべての小中学校に専門家による「いのちのおはなし」を届けることを提案します。

その費用がないために外部講師への依頼を断念している学校も少なくありませんが、「あなたがうまれてきてくれてうれしかったということ」、「ひとりひとりがありのまま愛される存在であると認識できること」は、子どもたちが生きていく上で一番大切な根っこ部分になります。子どもたちへの投資、未来への投資です。

性教育というと抵抗を感じる人があるかもしれませんが、赤ちゃんが生まれるというみんな幸せな気持ちでうれしくなるのに、いのちのできるしくみとなると身構えるのはなぜでしょう。世界の基準と比べると日本の性教育は非常に遅れていますし、実際には各国の研究で、性教育によって性交年齢を遅くさせ、慎重にさせるという結果が出ています。

15歳以下の妊娠は全国一年間で894人。そのうち158人が妊娠を継続し出産しており、736人は中絶を選択しているのが現状です。義務教育のうちに、信頼できる大人から子どもたちに正しい知識が提供し、望まない妊娠や性被害等から、自分の心身を守るすべを提供していきましょう。

性教育は本来、幼少期より家庭の中で繰り返し伝えていくことが望ましいとされていますが、それができない家庭もまだ多いことと、学校という集団のなかで共通理解として学べることに大きな意味があります。



●小中学校で外部講師によるいのちのおはなし実施(性教育)

年齢に応じた性教育内容例

- | | |
|--------|---|
| 幼児 | 赤ちゃんはどこから生まれてくるの？
わたしのからだ・ぼくのからだ
プライベートゾーン |
| 小学校低学年 | 赤ちゃんの誕生
いのちってすごい
からだのしくみ
プライベートゾーン |
| 小学校高学年 | 二次性徴とからだの変化
プライベートゾーンと洗い方
生理の時の過ごし方
自慰行為について SEXについて |
| 中学校 | 二次性徴とカラダの変化と向き合い方
SEXについて
性感染症・避妊について |

